

第一問

(一) 現在性を最重要とする発話は、直接現前が真理であり、発話が物質的素材に移転されたものである文字は真理を失い発話より下位に立つこと。

文字は発話より価値がなく、発話と違って媒介物であり、現在性を失った発話を物質的に移転することで過去性として保存する領域だということ。

(二) 文字化されたものは表現者の「生きている」発話ではないために、受け手側の解釈の介入によって表現者側の意図することが正確に伝わらない可能性があるということ。

死者の領域に属する文字が発話の媒介として代弁する書物は、読者の解釈によって著者の発話時の意図を超えて、過去性をもつ別の意図を現すということ。

(三) 本来自身も商品であったものを生きた商品関係の中から排除し、一般的等価物である貨幣として成立させるといふこと。

(四) 元は商品であった金銀が貨幣として一般的等価物の地位と機能を与えられ、あらゆる商品の相対的価値媒体として存在しているとの形式自体が排除の痕跡だから。

(五) 今日、元来商品でありながらも価値の交換媒体として商品交換から排除されてしまった貨幣と資本、そして、生きている発話の物質的素材への移転物である、過去の文字情報に人の生の世界が支配されることが当然とみなされていること。

発話の媒体であるが故に現実性と直接性を失った文字と、商品世界の媒介者たる一般的等価物であるが故に商品としての性質を失い商品世界から排除された貨幣とは、今日の社会の存立と維持のために不可欠な要素になっていること。